

『立命館法学総目次・総索引』 の発刊によせて

——「立命館學叢」「法と經濟」「立命館大學論叢」
「法と經濟」「立命館法學」「Ritsumekain Law Review」
の総目次・総索引——

1900年5月に創立された私立京都法政学校にその起源を有する立命館大学ならびに立命館大学法学部は、西暦2000年で満100歳を迎えた。

創立以来、学長として活躍された富井政章をはじめ、多くの研究者が本学の教育・研究の発展に寄与されてきた。とりわけ、1933年の京大事件により京都帝国大学を去った多くの教授陣を本学の専任教員として迎え入れたのちの本学の研究活動にはめざましいものがみられた。また、戦後も、末川博総長のもとで法学部は多くの逸材を擁し、日本の法学界の発展に大きく貢献してきた。今日の立命館大学法学部教員の研究活動は、これらの先人たちにより築き上げられた研究基盤のうに展開されているといっても言い過ぎではない。法学部の研究紀要「立命館法學」「Ritsumeikan Law Review」ならびにその前身ともいうべき各種研究紀要は、こうした法学部教員の研究活動の軌跡を示すものであるといえよう。

創立100周年を迎えるにあたり、法学部では、100周年記念事業の一環として、これらの研究紀要の総目次、総索引を作成することにした。本書が大学ならびに学部の歴史や研究活動をふり返るよすがとなれば幸いである。同時に、本書が今後の研究活動を展開していくうえでの

一つの参考材料として内外の多くの方々に利用していただければ望外の幸せである。なお、名称は現在の研究紀要（和文）の名称をとって『立命館法学総目次・総索引』とした。本書の作成は大平祐一教授を責任者とし、西村真弓さんの作業によって遂行された。御二人のていねいな作品となったことをここに記して感謝の意を表したい。

2001年9月

立命館大学法学会長

大 河 純 夫